

お手並拝見

趣味に生きる

飯田かつ代さん

(老人ホーム)



「何もしないでいるなんて、時間をもったいないですよ」

手芸・書道・生け花・墨絵・俳句と幅広い趣味を持つ飯田かつ代さんは、明治二十六年生まれの九十才、老人ホームきつての多芸の持ち主です。

起きている時間はすべて趣味の時間だとおっしゃる飯田さんは、お年を感じさせないあざやかな手つきで、次々と見事な作品を仕上

俳壇



橋の下更に濃ゆしや五月間  
土屋 栗水

柿の花水枕を蔭干しに  
成田 様子

初蟬やあかざの杖を頼る身に  
宇井 芝童

老舗門しだれて淡き花ざくろ  
藤代 ゆう

五月閑語り残しを路地の角  
若梅あやめ

初蟬を清がしく聞いて濯ぎをり  
向後 雅子

夏服の折目正して平社員  
鈴木 南知

風路をみつつけて藤の枕して  
海保 きみ

歌壇



噴き湧ける砂は無限に渦をなし流  
れけぶらふ黄河果てなく

齊藤つね子



とても九十才の作品とは思えません

けていきます。頼まれて毛糸を編むことも多く、つい先日もお友達にカーデイガンをつくってあげたばかりだとか。

「趣味は私の生きがいです。これからずっと続けて、毎日を楽しく過ごしたいと思います」

こう語る飯田さんの眼がとても優しく輝いているのが印象的でした。

津田 若菜

そこはかと風は花の香伴へり五月の朝の雨戸あくれば  
北田 ふじ

木洩れ日もとどかぬ庭の木下かけ  
春らんひそと花咲かせをり  
吉岡 信子

大好きとびつと孫の目にうかがひ  
選ぶ土産は迷ひに迷ふ

水の誘惑

思わぬときに  
事故は起こる



夏の暑さはわたしたちを水辺へと駆り立てます。海、川、谷川のせせらぎ……。夏は水が恋しくなる季節です。

しかし、わたしたちが水と親しくなるほど、水難事故が多くなることも見逃がせません。事故の大半は5月～8月の間に集中しているのです。

水の犠牲者の4割近くは中学生以下の子供です。57年の6月から8月までに水死したり、行方不明になった子供(中学生以下)は401人。このうち子供だけで事故に遭ったというのが7割(281人)。残りの3割(120人)は保護者が近くにいなから水の犠牲となっています。

子供の水難事故は思わぬとき思わぬ場所で起こります。子供だけで水泳や魚釣りに行かせないのはもちろん、一緒に海や川へ行つたときは、子供のことを心にしっかりとつなぎとめておきましょう。